



# 日本イメージ心理学会第9回大会

プログラム・発表論文集

**JIA**

(2008)

2008年11月29日－30日

アイーナ いわて県民情報交流センター

ご案内

## 1. 会期・会場

- ・会期：2008年11月29日（土）・30日（火）
- ・会場：アイーナいわて県民情報センター 7F会議室701
- ・住所：〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

### ■アクセス

## 2. 大会スケジュール

【第1日目（29日・土曜日）】

受付 11:00-  
 研究発表Ⅰ 13:00-14:40  
 50  
 教育講演1 15:00-16:10  
 20  
 教育講演2 16:20-17:30  
 総会 17:40-18:20  
 懇親会 18:45-

【第2日目（30日・日曜日）】

受付 9:00-  
 研究発表Ⅱ 9:30-10:  
 研究発表Ⅲ 11:00-12:

【大会前日（28日・金曜日）】

運営委員会 16:00-18:00（アイーナ6F 会議室605）

\*運営委員会は、大会第1日目（11:30~12:30: アイーナ8F会議室801和室）にも開催する予定です。

第1日目 11月29日(土)

CE < 十" - ¥# (13:00-14:40)	教育講演1・2 (15:00-17:30)	総会 (17:40-18:20)	懇親会 (18:45-20:30)
受付 (11:00-18:00)			

第2日目 11月30日(日)

CE < 十" - ¥# (9:30-11:50)	CE < 十" - ¥# (11:00-12:20)
受付 (9:00-12:00)	

### 3. 大会参加者へのご案内

#### ◇参加申込

参加を予定されている方で参加費を未納の方は、お早めの振込をお願いいたします。

1. 参加費は、一般会員（6,000円）・学生会員（3,000円）・臨時会員（6,000円）です。
2. 懇親会は、JR盛岡駅前の「東屋（あずまや）駅前店」（TEL：019-622-2233）にて行います。参加費は5,000円です。当日の参加申し込みもできます。多くのご参加をお待ちしています。

#### ◇受付（会議室701入口）

・大会会期中は、参加章を胸につけていただきます。参加章の該当欄に氏名・所属をご記入ください。

#### ◇研究論文集

・発表論文集は、会員全員に配布しましたが、別途購入される方は、受付で販売いたします。1部3,000円です。

#### ◇研究発表（会議室701）

・発表はすべて口頭発表形式で行います。1発表あたり20分です（発表時間15分、質疑5分）。

・各発表には座長がつきます。座長はコメンテーターも兼ねることとします。

・筆頭発表者になるのは、大会期間中1回に限ります。連名発表についてはこの限りではありません。

・発表では液晶プロジェクター（パワーポイント等）とパソコン（WindowsXP）が使用可能です。パソコンを持参される方はプロジェクターに接続して使用可能です。

・発表資料を配付される方は、会場の発表受付にお渡し下さい。資料は40部程度ご用意下さい。

#### ◇教育講演（会議室701）

・イメージ研究に関連する2本の講演があります。

#### ◇運営委員会（会議室605）

・大会前日（11月28日金曜日）16時よりアイーナ6階会議室605号で開催されます。

#### ◇総会（会議室701）

・第1日目、17時40分より会議室701で開催されます。

#### ◇事前のお問い合わせ 下記宛ご連絡下さい。

〒020-8550 盛岡市上田3-18-34 日本イメージ心理学会第9回大会準備委員会事務局

TEL：019-621-6767（松岡和生）FAX：019-621-6774

E-mail：[image9@jinsha.iwate-u.ac.jp](mailto:image9@jinsha.iwate-u.ac.jp)

最新情報は大会HP (<http://jinsha.iwate-u.ac.jp/image9>) をご覧ください。

## 教育講演

教育講演 1 【第 1 日 11 月 29 日 (土) 15:00~16:10】

### ロボットに重なる生き物のイメージ

- その由来、その現状、その未来 -

講演者 東洋大学工学部機能ロボティクス学科 教授 石原 次郎

司会者 岩手大学人文社会科学部 松岡 和生

チャペックの戯曲『R.U.R.』にその名が由来するロボット、つまり人間によって作られた、自律的に活動する装置は、最新のテクノロジーではなく、じつは人類の文明の歴史とともに古い。文献に現れる最初のロボットは、ギリシャ神話の時代にまでさかのぼることができる。その一方で、私たちはまだ、古今東西のロボットファンタジーに匹敵するようなロボットを実現するには至っていない。実現はまだ遠く不可能なのに私たちを惹きつけて止まないロボットという不思議なテクノロジーは、人間をめぐるイメージのつぼである。過去から現在に至るまで、いったい人間はロボットという言葉に、どんなイメージを託してきたのか。いわゆるフランケンシュタイン・シンドロームと呼ばれる、ロボットに対する恐怖感は、自動機械が醸し出す生き物じみたイメージの産物なのか。また、フィクションの世界で好んで描かれる、生物としての人間と、電子回路の組み合わせである人工知能を有するロボットとの、意識や感情などの境界の曖昧さ、あるいは消失といったイメージは、どこに由来するものなのか、といった点を中心に、ロボットが織りなすイメージの空間について、特に意識の問題に焦点を当ててご紹介したい。

#### 【講演者プロフィール】

略歴：1983 年東北大学文学部卒業、1986 年同大学院博士課程後期退学後、同大学助手を経て、1988 年北海道大学助教授、現在東洋大学工学部教授。

研究テーマ：もともとの専門はドイツ文学。芸術関係全般、芸術の認知心理学的な研究、テクノロジーと文化との相互関係、意識における感情の関わり方など。

**教育講演2 【第1日 11月29日(土) 16:20~17:30】**

## **ナスカ地上絵の空間イメージ**

**講演者 山形大学人文学部人間文化学科 教授 渡邊 洋一**

**司会者 岩手大学人文社会科学部 山口 浩**

ナスカの地上絵を認知心理学的に考えるとき、地上ではなく上空からの方が見やすいという、俯瞰的視点の獲得とそれに基づく設計・制作の過程が興味深く思われます。しかしこの問題は、ナスカの地上絵が大きく美しい印象的な図像であるが故に、必要以上に難解に考えられている可能性があるのではないのでしょうか。考古学・文化人類学的研究では、文字の存在しなかった古代アンデス社会において地上の構造物が情報伝達装置として機能したと考えられています。地上絵もひとつの地上構造物と考えると、たとえば東洋の都城造営における陰陽五行説のように、文化的背景や水利・道標という機能的目的などからアプローチできます。本講演では、上記のような観点から、地上絵の配置について実験をまじえて検討した結果について紹介します。もとより実証の困難な問題で、現在なお進行中の研究ですが、諸先生方のご教示を伺うことができれば幸甚と考えております。

### **【講演者プロフィール】**

略歴：1975年東北大学文学部卒業、1980年同大学院博士課程単位取得満期退学後、八戸工業大学助教授を経て、1988年山形大学助教授、現在山形大学教授・人文学部長。

研究テーマ：人間の認知、とくにパターン認識過程について実験心理学的に研究している。最近ではさらに研究領域を広げて、人間が周囲の空間環境をどのように認知するのかという観点から、考古学・文化人類学・地理学の人々と共同して「ナスカの地上絵」について考察をすすめている。

## 研究発表

研究発表Ⅰ [第1日目(11月29日) 13:00-14:40] 座

長 畠山孝男

1. ペグ操作の実際遂行時間と心的遂行時間の比較とイメージ能力 (8)

岩手リハビリテーション学院 ○岩崎

美絵子

岩手リハビリテーション学院 松田

均

2. イメージ生成能力と操作能力との関係について

(10)

北海道大学大学院文学研究科 ○松村圭司

北海道大学大学院文学研究科 菱谷

晋介

3. 健常者における離人体験と没入性・イメージ体験の関連性 (12)

文教大学人間科学部 ○岡田斉

文教大学大学院人間科学研究科 藤田

美穂

4. 物語への没入と解離体験の関係についての心理学的研究

(14)

自治医科大学 ○

川上亜希子

文教大学人間科学部

岡田斉

5. 快適な身体共有体験による吹奏楽における「息の合う演奏」の促進 (16)

文教大学人間科学部

今野義孝

研究発表Ⅱ [第2日目(11月30日) 9:30-10:50] 座

長 中村奈良江

1. 単語記憶におけるキーワードメソッドの効果

(18)

北海道大学大学院文学研究科 ○

松本信吾

鶴

2. 明るさイメージが明るさの識別課題におよぼす影響

(20)

北海道大学大学院文学研究科 ○

廣瀬健司

北海道大学大学院文学研究科

菱谷晋介

3. 空間記憶の方向特異性と身体方向が相対的方向判断に及ぼす影響

—室内実験における検討—

(22)

北海道大学大学院文学研究科 ○

大藤弘典

北海道大学大学院文学研究科

菱谷晋介

4. 触運動覚的3次元形態表象に視覚的干渉が及ぼす効果

(24)

北海道大学大学院文学研究科

森本琢

研究発表Ⅲ [第2日目 (11月30日) 11:00-12:20]

座

長 菱谷晋介

1. 情動刺激の先行提示がストループ干渉に及ぼす影響について

(26)

尚綱学院大学総合人間科学部

宮澤志保

2. イメージ・スケールを用いた色彩刺激の評価とアパシー傾向との関係

(28)

慶應義塾大学理工学部 ○

石村光資郎

東洋大学工学部

加藤智恵

子

多摩美術大学大学院美術研究科 伊集

院清一

日本大学医学部精神医学系 鈴木

康弘

3. 描画によるイメージの表現



(30)

智恵子

院清一

日本大学医学部精神医学系 ○鈴木康弘  
東洋大学工学部 加藤

多摩美術大学大学院美術研究科 伊集

4 . AIBO 使用時に現れる生物のイメージ  
(32)

子

光資郎

東洋大学工学部 ○石原次郎  
東洋大学工学部 加藤千恵

慶応義塾大学理工学部 石村

## 日本イメージ心理学会第9回大会準備委員会

委員長 松岡和生  
副委員長 山口浩  
委員 松田均 川原正広 藤澤佳充

表紙の「がんちゃん」は主催校岩手大学の公式イメージキャラクターです。

### 日本イメージ心理学会第9回大会プログラム・発表論文集

発行日 2008年11月5日

発行者 日本イメージ心理学会（JIA）第9回大会準備委員会  
岩手大学人文社会科学部 松岡和生

〒020-8550 盛岡市上田3-18-34

岩手大学人文社会科学部行動科学研究室

TEL : 019-621-6767

FAX : 019-621-6774

E-mail : image9@jinsha.iwate-u.ac.jp